



市議員 津田大三の  
市政報告レポート

# 大誌

Vol. 010

発行責任者：徳重貴昭

発刊日：8月1日

## 次期子育てプラン策定に向けて

京都市の子育て支援総合計画である新「京（みやこ）いきいきプラン」の計画期間が21年度までとなつています。そこで、次年度からの新たなプランを作成するにあたって、京都市民の皆様を対象として大規模なアンケートを実施しました。これは国の次世代育成支援法の趣旨に基づいて、市民の皆様にご意見を伺うためのものであり、5年間に1度市に関する意識を把握するためのものとして、5年間に1度市町村が実施すると法律で義務付けられています。その結果の詳細が7月22日の教育福祉委員会において報告されました。

調査項目は大別すると ①子育て支援に関する市民ニーズ調査 ②結婚と出産に関する意識調査 ③ひとり親家庭実態調査 ④母子保健に関する意識調査 ⑤思春期に関する意識調査 以上5項目であり、延べ10,000人以上の市民がアンケートに回答しました。その結果、総設問数250以上のアンケートを行いました。その全てを記載する訳にはいきませんので、以下に①に関するアンケート調査の一部をご紹介します。

問 子育てをしている今はどんな気持ちですか

答 1、こどもがいると毎日が楽しい(59.3%)

2、子育てを通じて家族の絆が強まる(43.2%)

3、こどもの成長とともに、自分も成長していると感じる(32.6%)

裏面に続く



問 子育てをするうえで、ご近所・地域の人々にどのようなことを期待しますか

答 1、こどもが事故や犯罪被害に巻き込まれないように気を配りあうこと(78.9%)  
2、こどもの危険な行為やいたずらを注意しあえること(67.6%)  
3、身近な問題について、親同士で相談や話し合いができること(46.5%)

問 こどもを育てていて、日頃感じられる悩みや不安を誰に、またはどこに相談していますか

答 1、配偶者・パートナー(59.6%)  
2、その他の親族(親、兄弟姉妹など)(37.5%)  
3、隣近所の人、地域の知人・友人(31.6%)

尚、答に関しては上位3つのみを記載させていただきました。

このアンケート調査は次期子育て支援プランを策定するにあたって大きな資料となります。本市は市民・地域が一体となって子育てを支えあう風土をつくることを目指しています。また、子育て支援は私の政治信条でもあります。この調査を活かし、子育て支援政策の充実や、地域の活性化に全力で取り組んでいきたいと思っています。

京都市の子育て支援の拠点 こども未来館



08年にリニューアルした宝ヶ池こどもの楽園



国旗は日の丸！ 国歌は君が代！

今年の7月1日に上田清司埼玉県知事が県議会本会議において「ルールに従い模範を示すべき教員が、模範にならないようではどうにもならない」と発言した上で、「日本の国歌や国旗が嫌いだ」というような教員は辞めるしかないのではないか。そんなに嫌だったら辞めたらいい」と、続けて発言した事が新聞等で報じられました。私自身もこの埼玉県知事の発言によって国旗・国歌というものを再び考えるようになりました。



「日の丸」「君が代」は平成11年の国旗国歌法によって初めて明文で規定されました。この法律が制定されるまでは法的な根拠が無く、我々はただ漠然と国旗・国歌と認識していただけでした。

この法律ができた背景は当時公立学校において文部省（現 文部科学省）の指導で「日の丸」の掲揚と「君が代」の斉唱を義務付けるようになりました。そこで、推進する文部省とそれに反対する教職員との間で板ばさみとなり、広島県の公立高校の校長先生が自殺するという事件が起きました。この大変痛ましい事件がきっかけとなり、国旗国歌法が制定されることとなりました。にもかかわらず、民主党の約半数の国会議員や社民党・共産党がこの法律制定に反対しました。

教員が国旗・国歌の事を好き、嫌いは別としても国旗国歌法という法律が制定された以上は、従わなければならぬのは当たり前です。この事を批判している人がよく憲法19条の思想・良心の自由を引き合いに出しますが、全くの筋違いな話ではないでしょうか。例えば消費税を悪税と考える人が、だからと言ってそれを支払わなければ処罰されます。思想や良心の自由を理由にルールを守らなくてもよいのだとすれば、社会は崩壊してしまいます。

実際、京都市の公立学校では平成12年度卒業式から100%国旗を掲揚し、国歌が斉唱されています。

但し、昭和60年に当時の文部省が初めて調査をした時には、京都の国歌斉唱率は3%程度で、沖縄県に次いで2番目に悪い実施率でした。

今後は国際化が更に進んで行きます。外国の国旗や国歌をどのように扱うかということは他文化との交流をしていく上で大変重要な事だと考えます。そのためにも自国の国旗や国歌に親しみと理解を深める事は真の国際人を育てて行く上でも大切です。真の国際人は自国の文化や伝統に造詣の深い人だと私は思っています。今後とも更なる教育の充実に取組んでいきたいと思っています。

日の丸を振って日本代表を応援するサポーター



卒業式で日の丸を掲揚する京都市の小学校

